

数学・理科・情報処理点字表記に関する改訂案概要

2018年6月2日

数学・理科・情報処理記号専門委員会

1. 「改訂」検討の概要について

(1) 「解説」の冊子

「数学・情報処理点字表記解説2019年版」及び「理科点字表記解説2019年版」（いずれも仮称）の2種類とする。（『日本点字表記法2001年版』の巻末に掲載されていた「情報処理用点字表記の解説」を分離し、「数学解説」と合冊する。）

(2) 内容についての方針点

「暫定版」発行から20年近くを経ておおむね定着しており、大幅な変更は行わない。

2. 主な変更内容

(1) 単位の表現について

ア. 小学校・中学校、及び高校（高校の理科分野を除く）においては、単位カッコ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ を使用しないことを原則とし、文中で数字に続く単位は、特に必要のない限り ⠠⠠ で表記する。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 3m $\text{⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠}$ $v=3.1\text{m/s}$ $v=3.0$ [m/s]

$\text{⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠}$ （墨字で単位がカッコで囲まれている場合は

⠠⠠ ⠠⠠ を用いる。）（したがって、表記法では「単位カッコ」についてふれる必要はないと思われる。）

イ. 「モル/L」のような日本語で始まる単位にも ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ の前に ⠠⠠ を置いて、 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ とする。（二重カッコと同型になるが、前後で判別は可能である。）

ウ. 「理科解説」第1部1.8「単位」(3)の「漢字や仮名の単位はなるべく該当するアルファベットに置き換えて表す」の表現は削除する。

エ. リットルの単位記号については、墨字では、教科書も一般の表示も大文字の「L」

に分けて考えられるものは、間に墨字のコンマがあっても数式のコンマは使用しない。

- ウ. 数式の後にあるコンマ等が日本語の読点の意味としてのコンマの場合は読点 ∷ □ で表すが、前後の関係によってはマスあけに置き換えてもよい。

(4) URLやメールアドレスなどの記号について

- ア. 情報処理用記号については変更しない（UEBの記号の導入はしない）。
その理由は、これまでの記号との違いが大きすぎることに、日本の記号はマス数なども含めてよくできた記号であることによる。
- イ. 情報処理用記号体系ではナチュラル表記を最も標準的な書き方とする。
（したがって、表記法において「ナチュラル表記」などの表現の必要はなくなると思われる。）
- ウ. 半角カナはほとんど使用されなくなっているが、点字記号は残す。
- エ. 通常のホームページの画面などは情報処理用記号体系とはせず、一般日本語点字として考える。

(5) その他

- ア. 虫食い算などにおいては、伏せた数字部を「 ∷ 」のみで表す。
- イ. 「数学解説」第2部5. 1 g (7) の「数式中のスラッシュ」は用途が限られており、弊害もないので、記号は残す。
- ウ. 立体指示符の記号は、高校物理においても原則として使用しない。（記号の定義は残す。）
- エ. 化学式の元素記号等の表記は従来どおりの記号体系とする。
- オ. 「理科解説」第3部2. 2 化学分野における錯イオンとイオン濃度を表す角カッコ [] ∷ ∷∷ は、数学記号の大カッコと同じ ∷∷ ∷∷∷ に変更する。
- カ. (削除)
- キ. 動植物名や化学物質名の長い専門用語については、意味上の区切りごとに第1つなぎ符 ∷ を挟んで、ひと繋がり語であることが分かるようにすると規定してきた。しかし、一般日本語表記においては、専門用語についても読みやすく適宜

マスあけして書くことが原則となってきたので、理科関係の専門用語についても「適宜マスあけをして書くことを基本にしながらも、必要に応じて、意味上の区切りごとに第1つなぎ符 ㉑ を挟むなど、ひと繋りの語であることが分かるように配慮することができる」などの表現を検討する。

(以上)